

障害者・高齢者向け交通機関モデルデザインに関する調査

1 調査目的

移動制約者の人々が公共交通機関を利用して移動する際に、安全かつ身体的負担が従来より軽くなるような車両構造に関するモデルデザインについては、平成元年度に3年間の調査研究成果としてまとめた『心身障害者・高齢者のための公共交通機関の車両構造に関するモデルデザイン』がある。同モデルデザインでは、鉄道・バス・タクシーの車両構造について、バリアフリー化を中心に心身障害者や高齢者にとって利用しやすい乗降口、車内設備・案内装置等の工夫を多数提示している。

しかし、同調査から既に10年が経過し、車両構造のバリアフリー化等に関する技術はめざましい進歩を遂げている。そこで本調査では、10年ぶりに同モデルデザインの内容を見直し、現在及び近未来の技術力で導入・普及される鉄道・バス・タクシー並びに旅客船・フェリーにおけるモデルデザインの策定・提示を目指すものである。

2 2カ年調査の概要

本調査は、2カ年計画で実施する。11年度は、対象範囲(人、交通機関)の検討、鉄道・バス・タクシー等の車両構造の改善点に関する国内の利用者に対する要望調査、欧米の先進事例調査、構造改善のコンセプトの検討を行った。平成12年度では、前年度結果のコンセプトを受けて、交通機関別に車両構造改善の部位別、設備別の「ラフスケッチ」を多数作成、選定し、最終的な「姿図(モデルデザイン)」を作成し提示する。

3 調査対象

前回(平成元年度)調査から10年が経過し、本モデルデザインの対象範囲についても見直しの検討を行った。対象者については、前は高齢者と心身障害者の区分だけであったが、今回は、障害者を「視覚障害者」「聴覚・言語障害者」「肢体不自由者」「内部障害者」「知的障害者」に区分して、それぞれの対応策を検討する事となった。一方、対象交通機関としては、元年度調査では、鉄道(都市間・都市内)、バス(都市間・都市内)、タクシー(乗用車型・バン型)であったが、今回は、それに旅客船・フェリーと鉄道の中に新交通、LRTが加わり、更にバスの分類に中型・小型ノンステップバスと観光バスが加わった。

4 調査内容

4.1 交通機関別の構造改善に関する要望調査

現在の鉄道・バス・タクシー・旅客船・フェリー等の構造について、身体障害者や高齢者などの移動制約者がどのような改善要望をもっているのか、全国の障害者団体、高齢者団体のご協力を得て、通勤・通院、買物等に使用する交通機関の「日常アンケート」と出張や旅行など都市間の移動時に使用する際の交通機関の構造についてお聞きする「旅行アンケート」を実施した。アンケートの配布・回収状況は、全体で1,200件を配布し、537件(回収率44.8%)を回収した。

4.2 車両構造の改善点に関する事業者要望調査

公共交通のサービスを提供する交通事業者、車両の製造メーカー等に利用者からの要望や実際の現場での対応など、全17社に対し、現モデルデザイン(平成元年度版)の変更要望などをヒアリング調査した。

4.3 欧米の先進事例調査

公共交通機関のバリアフリー施策が進んでいる欧米諸国、中でも先進事例の多い北欧諸国、西欧諸国と、アメリカ、カナダを対象国として、公共交通並びにSTS、パラ・トランジット等の車両構造、デザインについて調査し、交通機関別、部位別、装置別に我が国の参考となる事例を紹介する目的で、各国の中央政府、自治体、交通事業者等を訪問した。

5 調査結果：構造改善コンセプトの検討

4.1～4.3の諸調査を踏まえて、交通機関別の構造改善コンセプトを検討した。その結果、交通機関としては、我が国には未導入の小型ノンステップバス、ノンステップタクシーを検討すること。旅客船・フェリーについてはモデルシップとしてのモデルデザインを次年度に作成することとなった。更に、全ての公共交通機関に共通な問題として、公共交通機関で対応する「車いす」の大きさ、形状、重量とその「固定装置」、「車いす用リフト」、「スロープ」の耐荷重、寸法等をこのモデルデザインに加える事となった。

(要約：調査室調査役 和平好弘)